インターネットモニターアンケート調査結果（Ｑ１４）

１　調査名　地域福祉に関するアンケート
２　調査期間　平成２２年２月１０日午前９時～１７日午前４時
３　調査対象モニター数　2,040 人
４　調査回答モニター数　959 人（回答率　47％）
※　割合（％）は複数選択の設問や、小数点第２位以下四捨五入のため、割合の合計が１００％にならない場合があります。

５　調査結果

（１）設問内容

身近な支え合い・助け合いの活動（地域福祉活動）が地域に浸透するにはどのような事が必要ですか。また、どのような支援が必要ですか。

（自由記述）５１２文字まで。半角カナは使えません。

（２）回答概要

上記設問に関し別紙のとおり多種多様な回答が寄せられています。

自由記述のため回答内容は一律ではありませんが、現計画に記載の「施策の方向」との関連性を基に分類したところ、その結果は次表のとおりです。

施　策　の　方　向	件　数
1　手軽に気軽にわかりやすく情報が得られる	８５
2　相談しやすい体制をつくる	１２
3　身近な居場所を確保する	１４
4　多様な交流の機会を増やす	１７３
5　社会参加の機会を増やす	5
6　住民自ら活動に取り組む	６８
7　地域の団体・グループ活動を活発化する	5
8　身近なささえあいの仕組みをつくる	４８
9　安心して暮らせるまちを創る	１２
10　さまざまな団体・組織の活動の輪をひろげる	３４
11　地域福祉を担う人の資質を高める	1
12　福祉の心をはぐくむ	６８
13　その他	９１
合　　　　計	６１６

（３）主な内容

ア　各地域における住民同士の繋がりを深めることが重要である。

イ　そのためには各種催しを開催し、コミュニケーションを深めることが重要である。

ウ　ボランティア活動に関する情報がほとんど周知されておらず、広報の充実強化が必要である。

エ　ボランティア活動においては、多少の謝礼の支払う方が、気軽に依頼できより活発になる。